



# 初等部だより 12月号

鎌倉女子大学初等部  
平成26年12月1日  
第9号

## 休日に届けられた一通の手紙！

部長 松本 安博

冷たい風に銀杏の葉も落ち、遠くの山も白く見える季節になりました。

今年もインフルエンザの流行が心配されていますが、初等部は先週までのところ欠席者も少なく、各家庭におかれましても、今後ともに手洗いというがいの励行、睡眠時間の確保と栄養摂取に十分留意されますようお願ひいたします。

「守りたい今までの20年、創りたいこれから20年」をテーマに開かれた今年のみどり祭。初等部では特別企画として、シンポジウムと芸術鑑賞会を行いました。6年生が司会進行を務めたシンポジウムでは、4名のシンポジストのみなさんがそれぞれの立場から、初等部時代の思い出をもとに今の自分を語ってくださいました。フロアーからも学校や職業選択、学習方法などに関わる質問がたくさん寄せられ、盛会のうちに幕を閉じました。また、芸術鑑賞会では、本格的なオペラを鑑賞しました。松本記念講堂に響き渡る美しい歌声や色とりどりの光を使った演出に、感動のひとときを過ごしました。例年の作品展示の鑑賞に加え、5年生の案内ボランティアや6年生のお茶のおもてなし、中高等部生徒とのスポーツ交流など、充実のみどり祭となりました。

そのみどり祭の振替休日明けの朝のことでした。私は、支援室から休日に届けられていた一通の手紙をいただきました。その手紙は、丁寧な字でしたためられた3枚綴りのお礼の手紙でした。

よくよく拝読していくと、お手紙をくださった方は、いつにない急用があり、普段はそのようなことはないのですが、その日は家路を急いでおられたとのことでした。その折の転倒に際し、立ち上がりがなかったその方を3名の初等部生と保護者が駆け寄り、周囲の人と協力しながら介抱をしていただいたことが書かれていました。数日たって介抱した3名の初等部生が分かり、私はそのお手紙のことを伝えるとともに、その行動と心構えを褒めました。そして、私が「月曜朝会で初等部生にこのことを話したいと思いますが、3名の名前を言いましょうか。」と、問いました。たがいに顔を見合いながら、しばらくやりとりがありましたが、名前は出さないことになりました。本当は名前を出してほしかったのかも知れません。しかし、私と話をしているうちに人として当たり前のことをしたことに対して、多くを望まない気持ちをもった

ように思います。きっと3名のご家庭も、よい助言をしていただいたものと推察しています。

その方の許しもありましたので、手紙の一部を紹介させていただき、「人として当たり前のことを当たり前にできる」人ならんことの教えにさせていただきたいと思います。

「・・・このような場合には、それなりの対応をなすべきとしつけの一つとして身に備わつており、御家庭及び御校の指導の仕方ではないかと思いました。どのような場合でも、子どもとして、人間としてどう在るべきか、それを指導する御家庭や御校とそれを受け、実践する生徒にしようと育む御家庭と御校の姿に敬服しております。

時たまバスで午後3時～4時頃出かけますが、生徒さんは必ずバスの運転手に挨拶をし、降りるときは、ありがとうございますと礼をする。又先生は運転手にお願いしますと言い、又大船バス停の先の道路の側で、生徒が安全に渡れるように見守るという事を拝見しますと、御校の気風が伺いでき、敬服しております。・・・」

私は、月曜朝会で初等部生に、この方がこの日はどうしても家路を急がなければならぬ用事があったことでの出来事とともに、安全についても、私たちに教えてくださっていることを伝えました。確かに日々の忙しさの中で走っている人、歩道を勢いよく自転車に乗っている人など、危ない光景を見かけます。登校時や下校時の行動、家庭での自転車の乗り方についても安全に気を配り、周りの方に御迷惑をかけない「人として当たり前のことを当たり前にできる」心構えをもつことを重ねて伝えました。

お礼のお手紙とともに、たくさんの教えを届けてくださいました、その方に心より感謝を申し上げます。

